

1 単元名 偏見・差別をなくし、共生社会の実現を目指して
～ HIV感染症・エイズについての学習を通して ～

2 ねらい

- 資料や視聴覚教材を活用して、HIV感染症やエイズについて正しく理解することができるようにする。
- エイズ問題について、当事者や家族の思い、差別解消への取組などを理解し、HIV感染症やエイズに対する偏見や差別を解消していこうとする意欲や態度を育てる。
- HIV感染症やエイズについての学習をもとにして、様々な人権問題に関して課題意識をもち、自分の身の回りの問題について主体的にかかわろうとする態度を養う。

3 単元設定の理由

資料や視聴覚教材を活用して、HIV感染症やエイズについて正しく理解し、様々な人権問題を自分のこととして考えることができる人権意識の高揚を図りたいと考えた。HIV感染症やエイズについての学習を通して、正しく理解することが偏見や差別の解消につながることに気付かせたい。また、当事者や家族の思いにふれ、自分たちに何ができるか考えさせることで、共に生きる豊かな心情をはぐくみ、身近な人権問題を解決していこうとする実践的な態度を養うことができると考えた。そして、生徒には、すべての人が互いに尊重し支え合いながら共に生活する共生社会の実現を目指す一員へと育ててもらいたいと考え、本単元を設定した。

4 指導計画（4時間）

第一次 HIV感染症やエイズについて正しく理解する … 1時間

第二次 当事者や家族の思いを知り、共に生きる豊かな心情や態度を養う … 2時間

第1時 当事者の声を聞く（川田龍平さんの話から学ぶ）

第2時 HIV感染者やエイズ患者とのかかわり方を考える …（本時）

第三次 身近な人権問題について考える … 1時間

5 本時案

目標	○ 当事者や家族の思いを理解し、HIV感染者やエイズ患者とのかかわり方を考える。	
学習活動	教師の支援	準備物
1 前時を振り返る。	○ 川田龍平さんのビデオを視聴した生徒の感想を紹介し、前時の学習内容を振り返ることができるようにする。	

<p>2 プリントから、川田さんの気持ちを考えて発表する。</p>	<p>○ 感染を知った周囲の人たちの反応や、そのときの川田さんの気持ちを理解しやすいように、プリントを配付し、読み聞かせる。また、当時の様子を写真等で紹介し、状況をとらえやすくする。</p>	<p>・プリント「川田さんの話」(『エイズ教育のこれから一龍平から子どもたちに伝えたいこと』[川田龍平著 日本標準ブックレット] から抜粋) ・写真等</p>
<p>3 自分がH I V感染者やエイズ患者だったら、家族・友人等にどのように接してほしいか考え、班で話し合う。</p>	<p>○ 自分が当事者だったら、周囲にどのように接してほしいか、付せん紙に具体的に書くよう指示する。 ○ 話し合い活動では、付せん紙を模造紙にはり、分類することで意見をまとめていくことができるようにする。 ○ 班の代表者に、班で出た主な意見を発表させる。その際、自分の考えと比べながら聞くよう指示する。</p>	<p>・付せん紙 ・模造紙</p>
<p>4 H I V感染症やエイズに対するアメリカでの対応について知る。</p>	<p>○ ライアン・ホワイト君(アメリカ合衆国)のビデオを視聴し、当事者とのかわり方等について理解を深めることができるようにする。</p>	<p>・ビデオ</p>
<p>5 これまでの学習を振り返り、感想をまとめる。</p>	<p>○ 気付いたこと・感じたことに加えて、自分にできること等も記述することが大切であることを助言する。 ○ 感想を発表し、互いの意見を共有することができるようにする。</p>	<p>・ワークシート</p>

評価規準

- 熱心に話し合い活動に参加しているか。また、他人の意見をしっかり聞き、積極的に意見発表ができていないか。＜観察＞(関心・意欲・態度)
- これまでに学習したことを踏まえて、筋道を立てて適切に自分の意見をまとめることができているか。＜感想文＞(総合的な思考・判断)